

西濃農林事務所の普及活動状況

平成27年10月25日現在

今月の重点活動

■ トマト新規就農者 **水質改善対策**

8月26日に各就農者のハウスの引き渡しが行われ、9月1日より順次定植作業が行われた。しかし、井戸水に細かい砂等の不純物が含まれていたため、3名のハウスでは、定植直前に井戸のフィルターが詰り、灌水ができない状況に一時なった。対策として、井戸及び各ハウスの給液管のフィルターを毎日掃除することとし、同時に抜本的に改善するために、サンドフィルターを導入した。定植後は、2～3回/週の巡回支援を行い、栽培管理の進捗と生育状況を把握し、助言を行っている。給液管理については、就農支援センターの協力を得て、適切に管理する方法を助言をしている。



【導入したサンドフィルター】

活力ある新産地づくり

■ ブロッコリー **定植終了、新産地づくり地域活性化推進事業の取り組み**

9月上～中旬の天候不順により、全般的に定植作業が2週間程度遅れ、10月上旬に終了した。12月～3月が本格的な出荷期間となりそうである。定植後は天候に恵まれ生育は順調である。

新産地づくり地域活性化推進事業を活用し、①固化剤を用いた育苗試験、②12～1月収穫に向けた新品種試験、③マルチ簡易追肥試験について、西濃管内のブロッコリー農家の協力を得て試験ほ場を設置した。今後、生育調査等及び結果の取りまとめをし、研修会等で農家周知を図っていく。



【固化材を用いた育苗試験】

売れる農畜産物づくり

■ 水稲 **収穫状況及び種子生産**

今年の主食用米の収穫は、海津市の「早期あきたこまち」が8月10日より始まり、「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」、「あさひの夢」、「ハツシモ」の順で収穫を行った。全体の作柄は平年を少し下回る見込みである。

今年の水稲作は7月下旬から8月上旬までの高温に見舞われ、その後8月中旬から9月上旬まで雨天、曇天が連続した。その天候の下、「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」については登熟の時期の気温が高く推移したため、白未熟米の発生があった。「あさひの夢」は降雨等で成熟が遅れ、収穫時期は平年より遅くなった。西濃で最も面積の多い「ハツシモ」は初期生育の遅れが影響し、平年より数日遅い出穂となった。成熟の進度も平年より遅い傾向で、農協乾燥施設の荷受も当初想定より時期を遅らせる方向で調整された。ハツシモの収穫ピークは平年より1週間ほど遅くなるが、10月末でほぼ終了となる見込みである。

9月24日、(農)大垣南のハツシモ岐阜SLの採種ほ場で糊熟期審査を実施した。普及指導員中心に岐阜県の種子審査員、JAにしみのと岐阜県米麦改良協会とJA全農岐阜の審査補助員の合計約30人が、全ての採種ほ場に立ち入り、審査を行った。異品種、異形株、病虫害の有無を確認し、今年の実績面積約10ha(契約数量は約9ha)は全筆合格であった。採種ほの収穫は10月20日以降に行う予定である。

■新規需要米（養老町） **LGCソフトの収穫状況**

機能性成分米ビジネスモデル構築支援事業の実証ほが今年度も養老町に設置されており、9月28日にその収穫が行われた。品種は低グルテリン米の「LGCソフト」で今年は23aで栽培されている。今年の傾向として田植え後の低温傾向により茎数が少なく、収量は昨年よりやや少ない見通しである。収穫後は県により実需者へのPRがなされ、また、栽培農家による独自販売も行われる計画である。



【LGC ソフト収穫の様子】

■こまつな **こまつなの公開検査を実施**

下宮青果部会協議会小松菜部会の公開検査が10月16日に開催された。出荷されたこまつなの箱を開けて並べ、市場関係者や出席した生産者が1箱ずつ品質などについて確認した。

11月～2月播種（1月～3月出荷）は、ぎふクリーン農業対応栽培とすることなどが周知された。農業普及課からは、ぎふクリーン農業対応栽培暦を説明した。

■ナバナ **新規農薬の登録試験を実施**

海津市ナバナ部会では、生産者の高齢化に伴い病害虫の防除作業が大きな負担となっている。そこで、マイナー農作物農薬登録推進事業を活用して農業技術センターとともに海津市と輪之内町の2ヶ所でアブラムシ類、チョウ目害虫に対して効果が高い新規農薬の登録試験を実施中である。現在、新規農薬処理区では、アブラムシ類をはじめ各種害虫の被害が少なく、生産者の防除作業の軽減が期待できる結果となっている。

多様な担い手の育成・確保

■経営体支援 **日本農業賞岐阜県代表選考現地審査会の開催**

10月7日に日本農業賞岐阜県代表選考の現地審査会が養老町で行われ、集団組織の部に応募している（農）三郷の取り組みについて審査された。農業普及課が（農）三郷の経営概況について審査員に説明を行った。農地の集積率が高いことや飼料米・加工用キャベツの新たな導入について高い評価を得、全国への推薦が決定した。



【現地審査風景】

■経営体支援 **麦作共励会現地審査会の開催**

27年麦作共励会において、海津市の札野地域営農組合の現地審査が行われ、集団の部で県代表に決定した。10月23日に東海・近畿ブロック審査会が名古屋市で実施された。

■食農教育支援 **小学生稲刈り体験**

9月21日大垣市上石津町時地区で収穫体験が実施された。ユニーが主催し、地域の担い手組織「ときの輝生産組合」が中心となり取り組んだ。時地区、小学校、JAにしみの、大垣市、西濃農林事務所等関係機関は連携して支援し、ユニーが募集した小学生とその家族40人の稲刈りと、あまごのつかみ取り体験が実施された。



【稲刈り体験風景】